

科目	心理学実践領域実習Ⅱ A	単位数	1
担当教員	津田 恭充、櫻井 秀雄		
履修対象	心理科学科3年春学期		
目的	カウンセリングの基本的技法や発達障害や不登校事例を踏まえ、その臨床心理学的支援技法を習得する。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1)いくつかの代表的なカウンセリングや心理療法の理論を理解できる。</p> <p>(2)様々な発達障害や不登校児への発達臨床心理学的支援技法を理解できる。</p> <p>(3)その技法を事例を通じて活用できる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1)対人援助の実践方法について自ら考え判断できる。</p> <p>(2)発達や知的能力のアセスメント結果から適切な指導・助言を判断できる。</p> <p>(3)その発達特性に応じた環境調整等の決定をするプロセスを考えられる。</p> <p>(4)発達障害や不登校児への臨床心理学的支援技法について、総合的に思考・判断できる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1)対人援助に関心を持ち自ら課題に取り組める。</p> <p>(2)グループでの実習やロールプレイなどで仲間と協力できる。</p>		
授業計画			
1	はじめに/授業のオリエンテーション		
2	発達障害(自閉スペクトラム症)および不登校に対する臨床技法の歴史の変遷(櫻井)		
3	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する行動療法と感覚統合療法(櫻井)		
4	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する太田のステージによる認知発達治療とTEACCHプログラム(櫻井)		
5	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する補助代替コミュニケーション(AAC)とPECS/ソーシャル・ストーリーズと対人関係発達指導法(RDI)(櫻井)		
6	発達障害(自閉スペクトラム症)の二次障害としての不登校に対する精神力動的介入(遊戯療法の可能性について)(櫻井)		
7	学内現場実習:発達障害(自閉スペクトラム症)児者への臨床心理学的支援活動および事前準備に参加して学ぶ(櫻井)		
8	カンファレンス 学内現場実習の振り返り(櫻井)		
9	クライエント中心療法に基づく傾聴の体験(津田)		
10	クライエント中心療法に基づく傾聴の体験(津田)		
11	カウンセリングにおける非言語的要素の影響を調べる実験(津田)		
12	活動記録表を用いたセルフモニタリングと行動活性化(津田)		
13	活動記録表を用いたセルフモニタリングと行動活性化(津田)		
14	行動実験による苦手なことへの挑戦(津田)		
15	行動実験による苦手なことへの挑戦(津田)		
授業形態/具体的な内容	講義、学内実習(発達障害(自閉スペクトラム症)児者への臨床心理学的支援活動への参加など)、演習形式		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
プリント配布等。			
参考書	適宜配布するプリントに加え、下記の文献を参考図書とする。 福祉現場における臨床心理学の展開～医学モデルとライフモデルの統合を目指して/袴田俊一・三田英二・櫻井秀雄・西村武・寶田玲子(久美出版)		
成績評価の基準・方法	基準:授業内のロールプレイ、レポート提出、学内実習への参加、実習記録の提出がすべてなされていれば合格とし、内容に応じてさらに加点する。 方法:津田は授業内のロールプレイとレポート提出、櫻井は学内実習(6～7月の日曜日(3～4回程度)に開催される「発達障害(自閉スペクトラム症)児者への臨床心理学的支援活動」)に関するレポートと実習態度・実習記録から評価する。学内実習は指定された日時の中から必ず1回を選び出席すること。		
留意点	学内実習においては、直接、発達障害(自閉スペクトラム症)児者に接するので、守秘義務はもちろんのこと、自他共に怪我のないようピアス等は外すなど自己管理してください。		
準備学習	毎回の講義についてのノートおよび配付する資料は大切に保管し、必ず、復習して、次回に臨むこと。		
備考	講義テーマ等については、変更や入れ替えの可能性がある。	No.	PY622001